

校長短信

H29. 1. 13

No. 9

広島県立
大柿高校
Tel: (0823)
57-2055

【「親プロ」出前講座】

十二月一日（木）5限、



広島県教育委員会が開発した『「親の力」をまなびあう学習プログラム』（通称「親プロ」）の出前講座が、本校第3学年対象に行われました。以前在職していた生涯学習センターでゼロから開発した「学習者基点の参加学習型プログラム」です。当時はまだ「ファシリテーター」などという言葉も学校教育界には流通していませんでした。あれから十年、こうして全県各市町で広く利用されていることに「難産で産んだ子が元気に育ってくれた」ような感慨を覚え、校長挨拶にも力が入りました。講座自体はファシリテーターの巧みな進行で和やかに学習が進み、3年生たちも親になるための自覚や命の尊さについて、ごく自然に学ぶことができました。ファシリテーターはじめ関係者の皆様、本当にありがとうございます。またいつでも出前講座においでください。

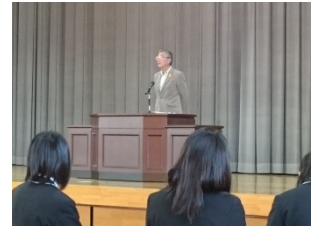


十二月二十日（火）全校でクラスマッチを行いました。男子はソフトボール、女子はソフトバレーボールで終日さわやかな汗を流しました。3年

【クラスマッチ】



本校では今年度より毎週火曜日の朝に全校朝礼を行っています。最近では、体育科の岩田先生が学生時代に自転車で九州を一周した思い出から「高校時代しかできないことに全力で挑戦してほしい」と語り、事務の佐野先生が新卒で民間企業に就職した際電話を取るのも怖かった体験から「社会に出れば1年生だけど恐れずに進んでほしい」と3年生を励まし、理科の栗山先生が「最後だとわかっていたなら」という詩を基に「二度とない高校生活を愛おしんで過ごしてほしい」と涙ながらに語られました。全ての教職員が一生懸命語る姿に、生徒の背筋はピンと伸びるようになりました。



【やって良かった！全校朝礼】

本校では今年度より毎週火曜日の朝に全校朝礼を行っています。最近では、体育科の岩田先生が学生時代に自転車で九州を一周した思い出から「高校時代しかできないことに全力で挑戦してほしい」と語り、事務の佐野先生が新卒で民間企業に就職した際電話を取るのも怖かった体験から「社会に出れば1年生だけど恐れずに進んでほしい」と3年生を励まし、理科の栗山先生が「最後だとわかっていたなら」という詩を基に「二度とない高校生活を愛おしんで過ごしてほしい」と涙ながらに語られました。全ての教職員が一生懸命語る姿に、生徒の背筋はピンと伸びるようになりました。



生は最後のクラスマッチで良い思い出となりました。

【中高合同「ニセフ募金」】

十二月二四日（土）市内4中学校と本校の生徒有志が市内のスーパーマーケットでユニセフ募金活動を展開しました。「100円で6人の命が救えます！」などと声を枯らして呼びかけ、昨年を大幅に上回る寄付が集まりました。折しもクリスマススイブで、校長は募金を入れてくださることにクリスマスソングを歌いました。



と声を枯らして呼びかけ、昨年を大幅に上回る寄付が集まりました。折しもクリスマススイブで、校長は募金を入れてくださることにクリスマスソングを歌いました。

善末エッセイ「涙の真珠」

謹賀新車

ある日の通勤途中「ハイブリッドシステム異常」の警告灯が点灯した。帰り、安気にディーラーへ寄った。

走行中に突然止まるかも。部品交換で25万。さらに不具合が出ることも。ここから先はメーカーも未知の領域。それならいっそ新車にされた方が...と脅された。走行25万キロ余。芸北への雪道も走りに走った。6年間命を預けた愛車を、年末、泣き泣き手放した。

愚息に3人目ができるといふ。めでたい。については車が手狭になるので大きな車に替えたいという。よからう。ついては少し補助をもらえんか。おい、ちよっと待て...こっちも新車を買ったばかりなんだぞ。

やっぱり新車は気持ちが良い。スピードも控えめになった。口座が空になった。体重も減った。(海坊主)